

ニ干シテ議論アリ然レトモ艦隊ノ為ササレハ拿捕ノ正當ナリヤ否ヤヲ決
スル能ハス從ツテ食糧和余約締結後ハ中立船ノ改収ノ決定ヲ為シ得ス
トスルモ拿捕ノ正不正ヲ定メ得テ中立船ニ与テハキヤ否ヤヲ定ムル為ニ
艦隊ノ行フノ必要アルナリ平和充後検査ニ依リ船舶載貨ヲ改収シ得ハ
キヤ否ヤハ因シテハ理論上ニ於テハ消極説カ有力ナリトス然レトモ反對
説アリ

捕獲艦隊所ノ艦隊ノ結果トシテ船舶又ハ載貨カ改収セラレタルトキハ拿
捕者ト拿捕サレタル船舶及貨物ノ持主トノ干係ハ終了スルモ未タ國際捕
獲艦隊所領ヲサレ以上ハ拿捕サレタル船舶ノ所屬國又ハ拿捕サレタル貨
物ノ持主ノ所屬國ハ其所屬ノ臣民 船舶ノ保護ヲ為ス權利ニ基キ友敵國
捕獲艦隊所ノ検査ノ國際法ノ規則ニ合セス又ハ形式上若ハ實質上明白ニ
不正ナルトキニ於テ外交談判ニ依リ抗議ヲ為シ且請求ヲ為スコトアルハ
ナリ此場合ニ於テハ純粹ナル國際法上ノ問題トナルナリ

第十章 中立財産

第一 中立財産トナスル概説

中立財産ニシテ特ニ説明ヲ要スルハ友敵國ノ領土 領海又ハ公海ニ在ル
モノニ限ル

中立性ヲ有スル財産ナルカ敵性ヲ有スル財産ナルカヲ定ムル標準ニ付キ
海上財産ニ干シテ在未決米主兼ト大陸主兼トノ間ニ差異アリタリ友敵國ハ
概ネ米主兼ニ依リ備置宣言ハ船舶ノ中立性又ハ敵性ハ原則トシテ其
扱場ノ權利ヲ有スル國旗如何ニ依リ定マルトシ(五七)貨物ノ中立性又
ハ敵性ハ其持主ノ中立性ヲ有スルカ敵性ヲ有スルカニ依リテ定マルト爲
セルモ(五八)持主ノ中立性又ハ敵性ヲ定ムル標準ニ付キ國籍ヲ重シス
ル大陸主兼ト住所ヲ重シスル米主兼トノ間ノ折衷ヲ求ムルニ成功セサ
リシヨリ海上捕獲ニ干シテハハハ中立性又ハ敵性ヲ定ムル標準ニ干スル
規定ヲ欠クニ至リ然ツテ貨物ノ中立性又ハ敵性ヲ定ムル標準ニ干スル規
定(五八)モ其ノ内容確定セザルニ至レリ(第一編第一節第四節参照)
海上財産ノ中立性ヲ有スルキヤ否ヤヲ定ムル標準ニ干シテ諸國ノ間ニ一致
ヲ得サル莫アルコト上述ノ如キモ各國英國内法ニ於テ各其標準ヲ定ム取

國ハ艦ヲ英米主義ニ依リ規程ヲ設ケタリ(敵國捕獲規程三乃至一〇)
 海上ニ在ル財産ハ交戦國領海ニ於テ又ハ公海ニ於テ交戦國軍艦ニ依リ會
 捕ナレ捕獲艦隊ノ結果收収ナレルコトアリ中立船舶及中立船中ノ中立貨
 物戰時禁制品輸送、封鎖侵破、敵對補助等ノ為メ會捕ナレ收収ナレルコ
 トアリ中立船舶中ノ敵貨ハ今日ニ於テハ戰時禁制品ノ性質ヲ有セザルト
 マル會捕シ得ス(巴里宣言第三則)敵國商船中ノ中立貨モ亦戰時禁制品
 ノ性質ヲ有セザルトキハ收収ヲ免ル(巴里宣言第三則)
 一方ノ交戦國ノ領土内ニ在ル中立財産ハ他方ノ交戦國力之ニ戰中ノ結果
 及ホシ許多ノ點ニ於テ敵國私有財産ト同一ノ待遇ヲ与ヘ得ヘキ所ナリ
 例ハ右開地ニ在ル中立財産ハ其ノ軍需品タルトキハ平和克復ニ互リ還付
 シ且賠償ヲ決定スヘキ條件ヲ以テ押收シ(海牙ノ陸戰ニテスル條約五三)
 又古蹟地ニ在ル中立財産ハ機要(公約第五三)又ハ取立金(公約九乃至
 五一)ノ目的物ト為スヲ得ルコトモ中立人(即チ海牙ノ陸戰ノ中立ニテ
 スル條約第十六條ノ規定ニ依リ)戰中ニ与カラザレ爾ノ國民)ハ其交戦
 國領土内ニ在ル財産ニテシテモ他方交戦國ノ戰中法規違反ノ行為ノ結果

五溪時ノ四十九一收

中立人タル所有者ハ常ニ充分ノ補償ヲ受ケザルヘカラス

第二 非常徵用權

中世ノ頃ヨリ交戦國ノ其地海ニ在ル中立國ノ船舶ヲ強要シテ予ノ一定ノ
 賃金ヲ取ヒテ軍需上ノ輸送ニ供事セシメタルコト屢々ナリ是レ非常徵用
 權 *ius organial* ノ名ヲ以テ呼ハレタル所ナリモ十七世紀頃ヨリ諸國
 ハ條約ニ依リ相互的ニ此意義ニ於ケル非常徵用權ヲ行ハサルヲ約スルニ
 至リ今日ニ於テハ此意義ニ於ケル非常徵用權ハ既ニ不使用ノ慣習ニ依リ
 消滅セルモノト認ムル所ナリ
 現時ニ於テ所謂非常徵用權ハ交戦國力戰中ニ於テ攻撃防禦ノ目的ノ為メ
 極メテ必要ナル場合ニ自己ノ領土又ハ敵國ノ領土ニ一時限ニ存在スル中
 立財産ヲ使用シ又ハ破壊スル交戦國ノ權利ヲ指スナリ中立財産ニシテ軍
 事上ノ目的ノ必要ノ為メ使用シ得ルモノハ非常徵用權ノ目的物ト為リ得
 ヘキナリ此ノ權利ノ行使ノ條件ハ敵ノ私有財産又ハ破壊ノ場合ニ同シ但
 中立人タル所有者ハ常ニ充分ノ補償ヲ受ケザルヘカラス

中立人の補償ヲ受ケルコトニ付キ本國ノ保護ヲ仰キ外交談判ヲ行フコトヲ要求シ得ヘキナリ

善化戦争ノ際一八七一一年独逸人ノダユクレーアニ於テセーオン河ニ畔ヘレ英國ノ石炭船六隻ヲ拿捕シ仏國砲艦ノ河ヲ遊シテ捕ケル爲メ之ヲ遊メタリ英國政府ハ談判ヲ爲シ佛乙政府ハ補償ノ義務ヲ否認セルモ實際ニ於テ補償ヲ与ヘタリ

第一平和會議ノ陸戰ノ場合ニ於ケル中立ニテスル條約中ニ於テ中立國ノ領土ヨリ米リタル鉄道材料ニシテ該中立國又ハ私立会社若ハ個人ニ屬シ又ハ屬スト認ムヘキモノハ必要已ムヲ得サル場合及程度ニ於テスルノ外交戰者ニ於テ之ヲ徵発使用スルコトヲ得ストスモ同條ニ必要已ムヲ得サル場合及程度ニ於テ非常徵用權ヲ認メタルナリ而シテ材料ハ或ルヘク運ニ本國ニ送還スヘク又賠償ヲ爲スヘキヲ定ム(一九第一項及第二項)

戰時國際法 (完結)

大正十三年十二月十日印刷 (林實品)
 大正十三年十二月十五日發行

東京市麹町區飯田町三丁目九番地

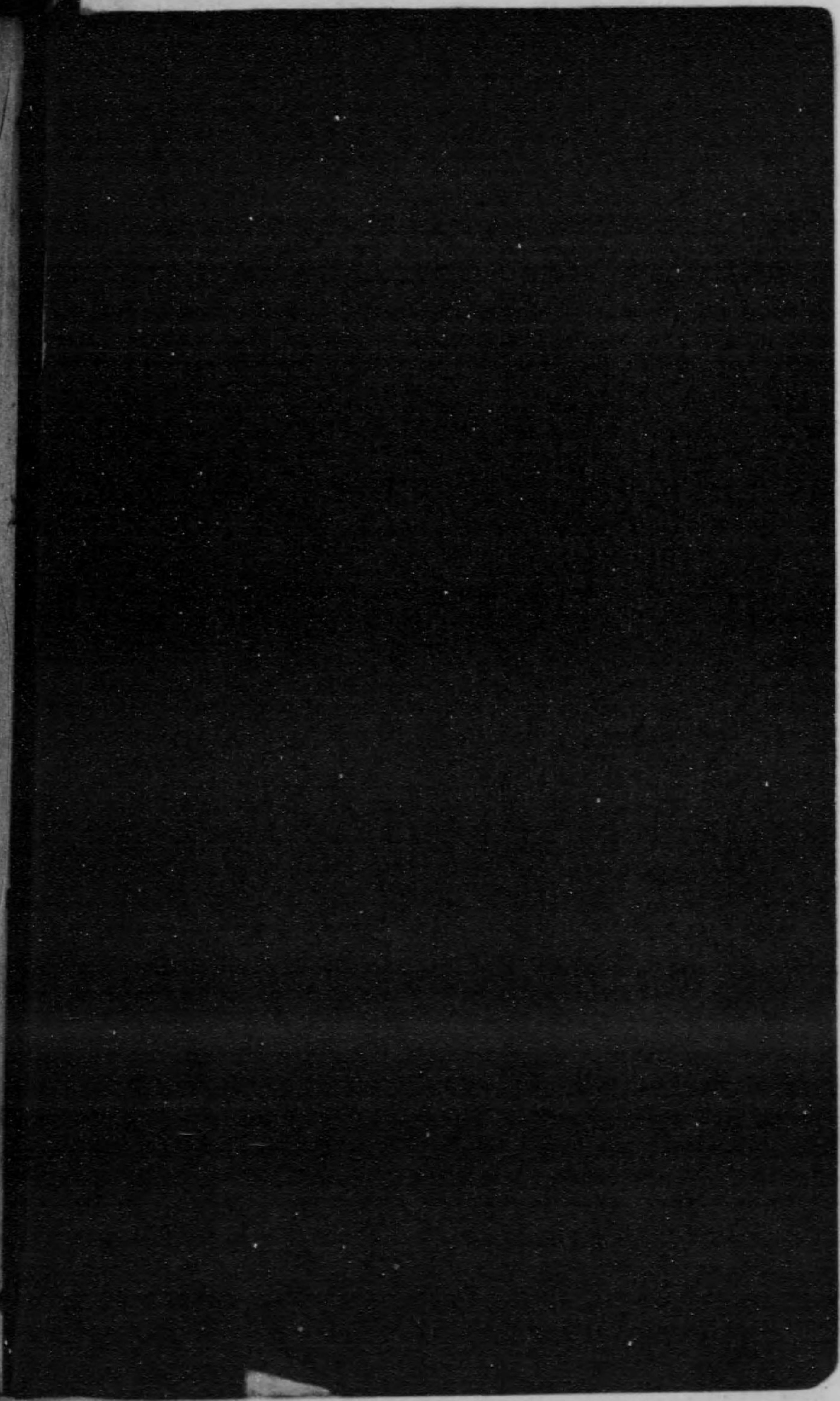
編輯兼 發行者 矢田長次郎
 同 上

印刷所 北光社

振替口座東京二五一五一

452
 393
 845

14
708



終

